大手方面

4 隅石垣（すみいしがき）

本丸跡を大手方面に下ると、岩盤上にわずかに残る石垣を確認することができます。この石垣は本丸の隅部に位置し、しかも石垣の基底部であったと考えられます。本丸跡の外周では、このような石垣を7箇所で確認することができ、本丸跡の石垣の想定ラインを復元する上で貴重です。

5 千貫井（せんがんい）

本丸の南西部の山腹に穿（うが）たれた井戸。岩間を流れた地下水が、ここで湧き出ていたと考えられます。山上に築かれた城にとって、この井戸は千貫にも値する貴重な水源でした。

6 登城道（とじょう）

本丸の石垣を少し下ると、登城道を確認することができます。登城道は、小さな曲輪（くるわ）（平坦地）と切岸（きりぎし）（急斜面）を迂回しながら本丸へ向かっています。

大手方面 佐和山城跡のご案内

佐和山城の歴史

鎌倉時代初期　近江源氏・佐々木定綱の6男時綱が、佐和山の麓に館を構えたのが始まりと伝えられています。

その後、佐々木家は六角氏と京極氏に分かれ、対立。佐和山城は、両勢力の境目の城として攻防が繰り返されました。

戦国時代に入ると、京極氏に代わって浅井氏が覇権を確立し、六角定頼と対峙します。しかしながら、上洛のために美濃からやってきた織田信長によって一変します。

信長は、浅井長政に妹お市を嫁がせて上洛の足がかりとし、六角氏の観音寺城を攻め、近江を制圧します。しばらくして、反信長勢力を中心に元亀の争乱が始まり、信長は姉川の戦いで浅井・朝倉連合軍を破り、浅井氏は小谷城と佐和山城に逃げ込みます。信長は、佐和山城の東西南北に武将を布陣させて包囲しました。城内に立て籠もった浅井家臣の磯野員昌は約8ヶ月籠城しますが信長に降伏。信長は重臣の丹羽長秀を配し、安土城築城までの間、近江支配の核、京都と岐阜の中継拠点、西国への最前線という機能を維持、秀吉の時代にも堀秀政、堀尾吉晴、石田三成と佐和山城に重きを置きました。

石田三成の時代には、山上に本丸以下、二の丸、三の丸、太鼓丸、法華丸などが連なり、山下には東山道に面して大手門が開き2重に巡らせた堀の内には侍屋敷、足軽屋敷、町屋などの城下町が建設され、佐和山西麓には琵琶湖の松原湊につながる百間橋が敷設されました。

関ケ原の合戦より遅れること2日、小早川秀秋ら寝返り組を主力とする15,000人の兵が佐和山城を包囲、三成は合戦で破れ湖北へ逃走、佐和山城は三成の父、兄の守備は堅く執拗な攻撃によく耐えましたが、兵力の違いはいかんともしがたく落城。天守は焼かれ自刃して果てました。

徳川家康は、関ケ原の合戦の論功行賞として、井伊直政に佐和山城が与えられましたが、翌年、直政死去。家老の木俣守勝は家康に相談し、彦根山への移築を決定しました。

佐和山城は、歴史のなかにのみ生きる城となったのです。

三成会議 MITSUNARI MEETING

ボランティアガイドご利用の手引き

私たちがご案内します。

国宝彦根城を始め、歴史と伝統を色濃く残す彦根のまちを、郷土の語り部がご案内いたします。彦根の基礎知識から、隠れた名所や地元でしか語り継がれない逸話まで、何を聞き出すかは興味のままに…。外国語（英語）によるガイドも可能です。お気軽にお申し込みください。

●対象　1名様より受付いたします。団体様も歓迎です。
※ガイド1名につき20名様までご案内。
20名様以上の場合は人数に応じてガイドを増員いたします。

●料金　ガイド料は無料。ただし、ガイド1人につき交通費1,000円頂戴いたします。
※正午をまたぐ長時間のガイドの場合は、午前・午後の分として
2,000円頂戴いたします。

●予約　当日の1週間前まで受付いたします。
※ガイドの都合により希望時にご案内できないことがありますので
ご了承ください。

●申込方法
webページ（http://www.hikoneshi.com/jp/sightseeing/guide/application）および申込み用紙のご提出によりお申し込みください。申込み用紙をお持ちでない方は下記へお問い合わせください。

●お問い合わせ先
俳遊館（彦根ボランティアガイド協会連絡所）
TEL：0749-22-6849　FAX：0749-22-6849　彦根市本町1-3-24
営業時間 9：00～17：00　定休日 毎週火曜日・12/29～1/3
URL: http://www.hikoneshi.com/jp/sightseeing/guide/
（公社）彦根観光協会HP内

皆様のご協力を頂き、大切な歴史遺産を後世に守り伝えましょう。

城跡内のご案内

- 佐和山は、清涼寺が所有する山です。マナーを守って登山してください。5名以上の団体で登山される場合には、**必ず清涼寺にて入山許可証の発行を受けてください。**
- 山中では火気類の使用は禁止されています。
- ゴミは各自で持ち帰ってください。
- 足元がたいへん滑りやすくなっています。履きなれた歩きやすい靴を着用してください。
- 佐和山城跡一帯で、ハチや野生動物（サル等）が出没しています。ご注意ください。
- 山中に照明はありませんので、午後4時ごろまでには下山するよう心がけてください。
- 山中にトイレはありません。
- 熱中症にならないよう、こまめに水分と休憩を取るよう心がけてください。
- 登山ルートは佐和山城跡観光案内詰所→切通し→西の丸跡→本丸跡→隅石垣→千貫井です。**復路は同じ道を引き返してください。**
- 事故や遭難につながります事から決められた登山ルートをお守りください。

1 切通し（きりとお）

絵図に「かもう坂通り往還」と記されている切通しです。佐和山城が城として機能していた時代には、佐和山城の北を限る道であり、東山道と琵琶湖岸の松原をつなぐ道として、旅人が頻繁に往来しました。

2 西の丸跡

絵図には、西の丸に南北方向に3段の曲輪（くるわ）が描かれ、上段に「焔硝櫓」、下段に「塩櫓」と記しています。ただ、現在は下段を「焔硝櫓（えんしょうやぐら）」と通称しており、名称の混乱が見られます。また、周囲には西に伸びる曲輪群も存在します。

3 本丸跡

佐和山の山頂、標高232.9mの位置に本丸が設けられていました。現在も山頂は平坦ですが、かつて本丸に存在したであろう天守台や枡形（ますがた）（入口）などの遺構は、ほとんど確認することができません。本丸は大規模な「破城（はじょう）」（城の破壊）があったと考えられます。

佐和山城跡MAP

大洞弁財天

井伊神社

【拝　観】9:00～17:00
(11月中旬～2月は16:00まで)
【拝観料】大　人…400円
小学生…150円

佐和山城跡観光案内詰所

観光案内詰所には、彦根ボランティアガイドが待機しております。ハイキング情報、注意点等、お気軽にお尋ね下さい。原則として、頂上までのご案内は事前予約のお客様に限られます。

駐車場（無料）

石田三成公像

龍潭寺（りょうたんじ）

龍潭寺山門をくぐり、本堂を左に見て境内墓地を通過し、右側の登山道を行くと、急な坂道になります。

佐和山城跡
登り口

清涼寺（せいりょうじ）

急な坂道を左右に曲がりながら約15分、山の尾根に出ます。

1 切通し（きりとお）

100mほど進むと三段に分かれた曲輪へ。「塩硝櫓」と書いた立札があります。

2 西の丸跡

大曲輪（おおくるわ）

本丸跡に向かい右側の斜面に幾筋かの堅堀が見られます。やがて西の丸跡の案内板に着きます。

3 本丸跡

急な坂道を登りきると平らな山頂に出ます。ここが本丸跡です。眼下に琵琶湖や彦根城、湖東平野、東には中山道（当時は東山道）が通ります。

4 隅石垣（すみいしがき）

本丸跡南の三角点を通り、50mほど下ると隅石垣があります。

5 千貫井（せんがんい）

千貫井から彦根市街地が眼下に見られます。

6 登城道（とじょう）

堅堀

二の丸跡

三の丸跡

太鼓丸

法華丸

馬冷池

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

登城道

大手門

城下町

土塁

土塁

土塁

小野川

近江鉄道

近江鉄道

東海道新幹線

中山道（旧東山道）

鳥居本

鳥居本駅

名神高速道路

至彦根IC

国道8号線

仙淋寺

東海道本線（JR琵琶湖線）

彦根駅

船町

船町東

彦根警察署

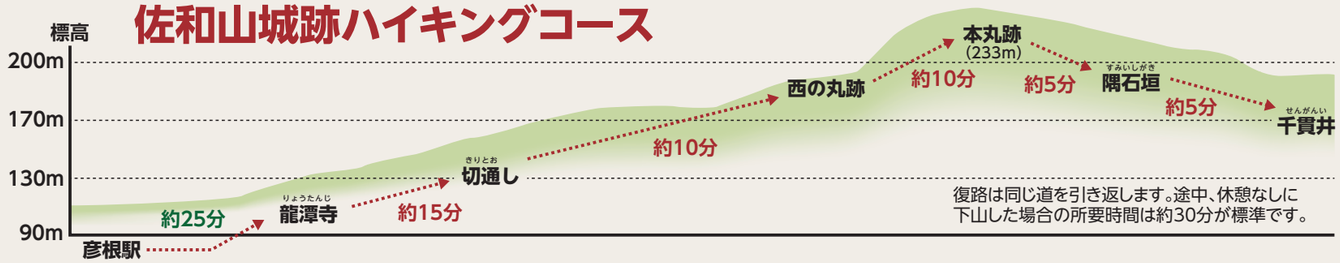
市役所

古沢町

↑米原

↑米原

佐和山城跡ハイキングコース



復路は同じ道を引き返します。途中、休憩なしに下山した場合の所要時間は約30分が標準です。

佐和山を中心としたイラストです。実際とは縮尺が異なります。